

ストレスによる腎機能の変化に対する六君子湯の効果

著者	白取 美幸
号	63
発行年	2003
URL	http://hdl.handle.net/10097/22563

氏 名 (本 籍) しら とり み ゆき
白 取 美 幸

学位の種類 博士（障害科学）

学位記番号 医博(障)第63号

学位授与年月日 平成 15 年 3 月 24 日

学位授与の条件 学位規則第4条第1項該当

研 究 科 専 攻 東北大学大学院医学系研究科
 (博士課程) 障害科学専攻

学 位 論 文 題 目 ストレスによる胃機能の変化に対する六君子湯の
効果

(主 査)

論文審査委員 教授 福 土 審 教授 後 藤 順 一

教授 谷 内 一 彦

論文内容要旨

社会構造の変化に伴い、心理社会的ストレスにより発症もしくは増悪する内科疾患が増加している。その中でも機能性消化管障害の診療上の重要性が高まっている。

機能性消化管障害の代表的な疾患である functional dyspepsia は、近年の研究により、ストレスの影響が大きいと考えられつつあるが、ストレスによるヒトの上部消化管機能の詳細な検討は十分にはなされていない。さらにまた、漢方薬の六君子湯のストレス誘発性上部消化管障害に対する効果の研究もなされていない。

上記のような背景のもとに、われわれは、ストレスが胃壁の緊張、および胃知覚過敏を誘発し、六君子湯は、それらを改善し、ひいては、ストレス誘発性の症状をも改善すると仮説づけ、これを検証することを、本研究の目的とした。

対象は、健常者男女9名で、方法は、被験者を2群に男女ほぼ均等に割りつけ、六君子湯服用時と非服用時の胃機能を比較するため、消化管機能検査法的一种であるバロスタットを用いて、胃知覚閾値、胃壁緊張を測定した。また、ordinate scale の記入により、内臓知覚と情動も測定した。測定中に、3次元映像による視覚ストレス負荷を行い、その前後における測定値を分析し、比較した。なお、測定中、被験者にホルター心電計を装着して、心電図を記録した。

結果は、最初の内臓知覚を起こす消化管伸展刺激に対して、六君子湯非服用時にはストレス負荷後に胃容量が減少するのに対し、六君子湯服用時ではこの反応を有意に抑制した。また、内臓知覚と情動においても、胃伸展刺激に対する上腹部膨満感と自覚的ストレス感、および不安感が、六君子湯服用時に有意に低下した。

結論として、六君子湯は、胃上部の低圧伸展刺激におけるストレス誘発性胃壁緊張を改善することが示唆され、伸展刺激に対する上腹部膨満感、自覚的ストレス感、不安感を減少させることで、臨床効果を示している可能性が示唆された。

審 査 結 果 の 要 旨

白取美幸の提出論文「ストレスによる胃機能の変化に対する六君子湯の効果」の第1次審査において、本人の返答書を必要とする一部訂正が求められた。提出論文では、背景、方法、結果、考察に関する記述と分析が加わり、図表が訂正され、考察部分に第1次審査員の意見が取り入れられ、適切な改訂がなされた。その結果、論文内容が改善した。

社会構造の変化に伴い、心理社会的ストレスにより発症もしくは増悪する内科疾患が増加している。その中でも機能性消化管障害の診療上の重要性が高まっている。機能性消化管障害の代表的な疾患である functional dyspepsia は、近年の研究により、ストレスの影響が大きいと考えられつつあるが、ストレスによるヒトの上部消化管機能の詳細な検討は十分にはなされていない。さらにまた、漢方薬の六君子湯のストレス誘発性上部消化管障害に対する効果の研究もなされていない。本研究では、ストレスが胃壁の緊張、および胃知覚過敏を誘発し、六君子湯は、それらを改善し、ひいては、ストレス誘発性の症状をも改善すると仮説づけ、検証した。

対象は、健常者男女9名である。方法は、被験者の胃機能検査を六君子湯服用時と非服用時の2回カウンターバランス法で行った。胃機能検査はバロスタットを用い、被験者の胃知覚閾値、胃壁緊張を測定した。また、ordinate scale により、内臓知覚と情動を測定した。さらに、ホルター心電計を装着して、心電図を記録した。安静時測定の後、3次元映像による視覚ストレス負荷を行い、その前後における測定値を分析し、比較した。

結果は、最初の内臓知覚を起こす消化管伸展刺激に対して、六君子湯非服用時にはストレス負荷後に胃容量が減少するのに対し、六君子湯服用時ではこの反応を有意に抑制した。また、内臓知覚と情動においても、胃伸展刺激に対する上腹部膨満感と自覚的ストレス感、および不安感が、六君子湯服用時に有意に低下した。

六君子湯は、胃上部の低圧伸展刺激におけるストレス誘発性胃壁緊張を改善することが示唆された。また、六君子湯は、伸展刺激に対する上腹部膨満感、自覚的ストレス感、不安感を減少させることで、臨床効果を示している可能性が示唆された。

提出論文は、functional dyspepsia をはじめとするストレス関連疾患の病態解明の点で、また、その克服手段としての六君子湯の科学的効果を検証した点で、新しい知見を提供するものである。よって、学位に値するものとして、審査を終了した。